



# TroubleShooting Trace Setting の設定

---

この章では、Cisco CallManager Serviceability の TroubleShooting Trace Setting Web ページを使用する方法を説明します。

すべての Cisco CallManager ノードで利用可能な TroubleShooting Trace Setting Web ページは、Cisco CallManager のインストール時にインストールされます。TroubleShooting Trace Setting ページにアクセスするには、**Trace > TroubleShooting Trace Setting** の順に移動します。

次のトピックでは、TroubleShooting Trace Setting の設定について説明します。

- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.9-2\)](#)
- [トラブルシューティング トレースのリセット \(P.9-4\)](#)

## トラブルシューティング トレースの設定

トラブルシューティング トレースの設定値を設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。
- Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Trace > Troubleshooting Trace Settings** の順に選択します。
- ステップ 3** トラブルシューティング トレースを設定する各 Cisco CallManager ノードのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** Services リストで、トラブルシューティング トレースを設定するサービスのチェックボックスをオンにします。



---

(注) 特定のノードのすべてのサービスをチェックする場合は、そのノードの下にある **Check all Services for a Node** チェックボックスをオンにします。

---

- ステップ 5** トラブルシューティング トレースを設定するすべてのサービスを選択したら、**Apply Troubleshooting Traces** をクリックします。



---

(注) 長期間にわたってトラブルシューティング トレースを使用可能にすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスが低下する可能性があります。

---

ページが更新されます。

---

**関連項目**

- [トラブルシューティング トレースのリセット \(P.9-4\)](#)
- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の「Trace」

## トラブルシューティング トレースのリセット

トラブルシューティング トレースをリセットする手順は、次のとおりです。

### 始める前に

次の手順を実行する前に、トラブルシューティング トレースを設定する必要があります。P.9-2 の「[トラブルシューティング トレースの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Troubleshooting Trace Settings** の順に選択します。

**ステップ 3** **Reset Troubleshooting Traces** をクリックします。

ページが更新され、サービスの元のトレース設定値が復元されます。

---

### 関連項目

- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.9-2\)](#)
- [トレースの設定 \(P.5-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の「Trace」